

# 国内由来の 外来植物

日本にもともと生育している植物であっても、人間の活動によって自生していなかった地域に運ばれ、移動した場所に定着することで問題を引き起こすことがあります。これを「国内由来の外来種問題」とよび、高知県の事例では、本来は分布域が異なる2種類の野菊類「シオギク」と「ノジギク」が人の手により移植されたことで交雑し、雑種が生じ種間の遺伝子汚染が進んでいます。

シオギクは高知県物部川より東部、徳島県南部までの海岸付近に自生する、頭花の辺縁部に白い舌状花をもたないキク属の植物です。一方、同じキク属に含まれるノジギクは高知県物部川より西部～愛媛、九州（太平洋側）と本州（兵庫県以西瀬戸内海側）に生育し、頭花の辺縁部に白い舌状花をもちます。もともと生えていなかったノジギクが、シオギクの自生地へ意図的に移植され、室戸岬では短い舌状花をもったシオギク雑種群がみられるようになりました。

遺伝子汚染とは、本来その地域に生育する地域個体群がもっていない遺伝子が人間活動の影響によって導入されることです。純粋な地域個体群がもっていた遺伝子に不可逆的な負荷を与え、遺伝的多様性を脅かします。異なる種との交雑による種間雑種だけではなく、同じ種どうしであっても、その地域特有の遺伝子が汚染されることがあります。このように、日本にもともと生えている在来種でも、その地域にもともと生えていた植物に遺伝子汚染をもたらす生態系に影響を及ぼすことがあるため、外来種被害予防三原則（入れない、捨てない、拡げない）を守ることが大切です。

上から：シオギク自生地、シオギク自生地に生える雑種、シオギク雑種群の頭花



## もっと詳しく 調べるために



### 日本の外来種対策（環境省自然環境局ホームページ）

<https://www.env.go.jp/nature/intro/>

環境省の外来生物対策のページで、特定外来生物に指定されている生物一覧や外来生物法、外来生物の被害予防などを詳しく知ることができます。

各種普及・啓発リーフレット、パンフレットは以下のアドレスから入手できます。

<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/poster.html>

### 侵入生物データベース（国立環境研究所ホームページ）

<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>

外来生物について種ごとに詳しい解説があり、種名（学名）や侵入経路、国内の分布状況などを知ることができます。